

## 5章－2 総合演習⑤文化史

### 要点

#### 1. 古代の文化

- ① 観勒 ② 白鳳 ③ 聖武 ④ 鎮護国家 ⑤ 行基 ⑥ 南都 ⑦ 鑑真  
⑧ 乾漆 ⑨ 勅撰 ⑩ 加持祈禱 ⑪ 一木 ⑫ 国風 ⑬ 末法  
⑭ 往生要集 ⑮ 寄木 ⑯ 来迎 ⑰ 寢殿 ⑱ 本地 ⑲ 中尊寺  
⑳ 今様

#### 2. 中世の文化

- ① 時 ② 臨濟 ③ 運慶 ④ 頂相 ⑤ 新古今和歌集 ⑥ 足利義満  
⑦ 足利義政 ⑧ 四季山水図巻(山水長巻) ⑨ 枯山水 ⑩ 世阿弥 ⑪ 宗祇  
⑫ 鎌倉 ⑬ 蓮如 ⑭ 一向 ⑮ 法華 ⑯ 山口 ⑰ 桂庵玄樹  
⑱ 千利休

#### 3. 近世の文化

- ① 数寄屋 ② 俵屋宗達 ③ 尾形光琳 ④ 井原西鶴 ⑤ 陽明  
⑥ 菱川師宣 ⑦ 洒落 ⑧ 錦絵 ⑨ 大槻玄沢 ⑩ 東海道中膝栗毛  
⑪ 滝沢馬琴 ⑫ 風景 ⑬ 本多利明 ⑭ 復古

#### 4. 近・現代の文化

- ① 民約訳解 ② 三宅雪嶺 ③ 大森貝塚 ④ 北里柴三郎 ⑤ 経国美談  
⑥ 二葉亭四迷 ⑦ みだれ髪 ⑧ 黒田清輝 ⑨ 柳田国男 ⑩ 岸田劉生

#### 5. 教育史

- ① 国学 ② 明経道 ③ 芸亭 ④ 空海 ⑤ 金沢文庫 ⑥ セミナリオ  
⑦ 松平定信 ⑧ 荻生徂徠 ⑨ 鳴滝塾 ⑩ 学校令 ⑪ 教育勅語  
⑫ 新島襄 ⑬ 津田梅子 ⑭ 公選 ⑮ 任命

### 問題

#### 【1】

#### 解答

- (1) (2) 63 (3) (4) 41 (5) (6) 21 (7) (8) 40  
(9) (10) 06 (11) (12) 61 (13) (14) 03 (15) (16) 62  
(17) (18) 52 (19) (20) 34 (21) (22) 66 < 38 も○>  
(23) (24) 10 (25) (26) 13

- (1) (2) 『日本往生極楽記』は最古の異相往生伝で、10世紀末に慶滋保胤よししげのやすたねが著した。極楽往生を遂げた皇族から庶民に至るまでの伝記を取めたものである。そのなかに、本文中にあるように平安前期の浄土教の状況が示されている。
- (3) (4)・(5) (6) (3) (4)は当時の王朝の宋であることはわかると思うが、四段落目の「(3) (4)から帰国して臨済宗を伝えた栄西」からも宋であることがわかる。(5) (6)は難問。普段の学習の際は、こういった問題に時間を割くのではなく、頻度の高いものや、頻度自体が高くはなるとも著名な人物や事件、事柄に関連するものは確実に得点できるようにしておこう。
- (7) (8) 段落の前半は法然に関する文章である。法然は美作国の出身で、比叡山延暦寺で修行、のちに『往生要集』を読み浄土教の影響を受け、専修念仏を唱え浄土宗を開いた。その教えは庶民から貴族まで広がり、九条兼実などから帰依を受けた(九条兼実の求めによって浄土宗の教義を説いた『選択本願念仏集』を書いている)。旧仏教の圧迫で四国に配流になった(この時弟子の親鸞も越後に配流されている)が、のちに許され、京に帰ったがまもなく没した。
- (9) (10)・(11) (12) 段落の後半は浄土真宗の開祖親鸞に関する文章である。親鸞は貴族の子として生まれ、比叡山で修行し、後に法然に師事した。(7) (8)の解説にあるように、旧仏教の圧迫により法然とともに流罪となり、越後に配流となった。赦免後は関東を中心に布教をし、のちに京に赴きそこで没した。彼の死後、弟子の唯円によって『歎異抄』が書かれ、そこに、親鸞の教えである「悪人正機説」などが紹介されている(『歎異抄』は親鸞の著作でないことに注意)。
- (13) (14)・(15) (16) この段落の前半は時宗の開祖である一遍についての文章である。一遍は伊予の武士の子で(鎌倉新仏教の開祖については、その宗派、著作、特徴はよく聞かれるが、この問題にあるように生まれた国名もよく聞かれるので注意)、「南無阿弥陀仏、決定往生六十万人」という札を配りながら、諸国を歩いて廻り、遊行上人の異名をとった。また、群集が念仏を唱えながら踊るといふ踊念仏という独特の手法で信者を増やしていった。彼自身の著作は残っていないが、死後にその言行をまとめた『一遍上人語録』や、彼の生涯を描いた『一遍上人絵伝』などが有名。
- (17) (18)・(19) (20) この問題は難問。「鏡御影」は「親鸞聖人像」ともいわれ、藤原隆信の孫で、藤原信実の子、専阿弥陀仏の写生で、親鸞が鏡を見てよく似ているといったことからこの名がついた。
- (21) (22) ここの解答は禅宗でも臨済宗でも可だが、より具体的な臨済宗の方がよいだろう。臨済宗は鎌倉時代の北条氏や、室町幕府の庇護を受け、京・鎌倉の五山を中心に発展した。
- (23) (24) 日蓮は安房に生まれ、日蓮宗(法華宗)を開いた。その布教は攻撃的で、辻説法などにより他宗を非難し、北条時頼の庇護する臨済宗まで攻撃した。また、1260(文応元)年に『立正安国論』で国難を予言し、それを回避するために法華経以外を禁じるべきだと述べたことが幕府を刺激し、1261(弘長元)年には伊豆に流罪となった(1271<文永8>年には佐渡に配流される)。他には『勸心本尊鈔』や『開目鈔』が著作としては有名。
- (25) (26) 北山十八間戸は、ハンセン病患者の救済施設として忍性が建てた棟割長屋。忍性

は、西大寺流律宗の僧で叡尊の弟子で、戒律の復興に努めるとともに、非人・ハンセン病患者救済等の慈善事業や土木事業に貢献した。のちに北条氏の信頼を得て鎌倉極楽寺を拠点とした。

【2】

**解答** .....

A (1) 48 (2) 16 (3) 14 (4) 35 (5) 2 (6) 49  
 (7) 39 (8) 15 (9) 19 (10) 43 (11) 8 (12) 38  
 (13) 18 (14) 24 (15) 28 (16) 23 (17) 6 (18) 20

B a 廃仏毀釈 b 1837 c 懷徳堂

C (ア) 平安期に成立した神は仏が日本に現れた時の仮の姿だとする考え。(30字)  
 (イ) 朱熹や王陽明の解釈を排して孔子、孟子の原典に即してその教えを理解しようとする点。(40字)  
 (ウ) 朱子学を正学とし、聖堂学問所では古文辞学派などそれ以外の儒学の講義を禁じたもの。(40字)

**解説** .....

A・B 仏教公伝以前の信仰については、縄文文化（アニミズムなど）、古墳文化（太占・盟神探湯など）があるが、もう1つ今日に続く神社の成立がある。5つの神社を覚えておこう。

むなかた 宗像大社	福岡	沖ノ島を海神として祀る。多くの祭祀遺跡が遺されていることから、「海の正倉院」と称される。
おおみわ 大神神社	奈良	三輪山を神体とする。祭神の大物主神の妻である倭迹迹日百襲姫（やまとととひももそひめ）の墓と伝えられるのが箸墓古墳。 <sup>はしはか</sup>
伊勢神宮	三重	内宮は皇祖神である天照大神を、外宮は穀物神である豊受大神を祀る。この神社の建築様式を神明造という。
出雲大社	島根	大国主神を祀る。本殿の高さ16丈（約48m）とのいい伝えが発掘により確認された。この神社の建築様式を大社造という。
住吉大社	大阪	神功皇后と3海神を祀る。この神社の建築様式は大社造が発展した住吉造である。

(3) 平安時代に盛んになる神仏習合は、すでに奈良時代には神宮寺、神前読経の出現というかたちで始まっていたことに注意。

(4) 宇佐八幡宮（大分県）を始まりとする八幡信仰は、清和天皇の860（貞観2）年に石清水八幡宮創建によって平安京の鎮守として中央進出を果たした。清和源氏は石清水八幡宮を篤く信仰した。例えば、源頼義は石清水八幡宮を鎌倉に勧請してのちの鶴岡八幡宮のもとを造り、その子の源義家は石清水八幡宮で元服し八幡太郎と称した。

平安時代については、本地垂迹説の成立だけでなく、密教と山岳信仰が結合した修験道が現れること、「薬師寺僧形八幡神像」（弘仁・貞観文化）のような美術分野との関連にも目を向けておこう。

(5)・(6) 中世の神道は、反本地垂迹説に立つ2つの神道を覚えておけばよい。

鎌倉時代	伊勢神道	度会家行	度会家行は伊勢神宮外宮の神職
室町時代	唯一神道	吉田兼俱	

(8)・(9) 江戸時代前半には朱子学と神道との融合が行われ、いわゆる儒家神道が成立した。儒家神道で覚えておくべきは山崎闇斎の垂加神道だけである。語群 51 の理当地心神道は(7)の林羅山が唱えた神道であるが覚える必要はない。

(10) 江戸時代後半には、国学の中から平田篤胤の復古神道が成立する。平田派国学は農村の有力者に広まり、幕末には草莽と称される在野の政治勢力に大きな影響を与えた。幕末期の神道関係では、御蔭参り(60年周期説といわれ江戸時代に定期的に起きた伊勢神宮への集団参拝であるが、1830〈天保元〉年のものは参加人数500万人と驚異的な人数であった)や「ええじゃないか」、のちに明治国家から公認され教派神道と呼ばれた一連の新興神道については、ここでは問題にされていないが必ず覚えておこう。教派神道は13派であるが、覚えるのは中山みきの天理教、川手文治郎の金光教、黒住宗忠の黒住教の3つである。

明治期には、当初、政府が祭政一致の立場から神道国教化を推進したことと関連して、1868(明治元)年の神仏分離令の発令、それに端を発したBのaの廃仏毀釈の運動、1870(明治3)年の大教宣布の詔は覚えておこう。しかし、神道の国教化は頓挫してしまい、かわって政府は神道を宗教として扱わないとする神社神道=国家神道へと転換する。

最後に、明治の後期に出口なおによって創始され、出口王仁三郎によって組織化された大本教おおもとときょうを押さえておこう。当然、明治初期に公認された教派神道には入らない。大本教は天皇制の論理と鋭く対立したため、大正と昭和の2回、不敬罪・治安維持法違反で弾圧を受けた。

(11) 建仁寺は難問である。建仁寺は、栄西を開山に源頼家が創建した寺で、京都五山の第3位。応仁の乱で荒廃したが、安国寺恵瓊により再興された。五山文学の双璧と謳われた絶海中津、義堂周信がいたことがある。

(15) 中井竹山も難問だろう。cの懐徳堂の設立に尽力し、自ら第2代学主となった語群27の中井鷲庵の子。『草茅危言』という書名を頭に留めておこう。語群29の中井履軒は竹山の弟。第4代学主となった竹山のあと、第5代学主となった。

懐徳堂が生んだ特異な思想家の一人が山片蟠桃である。竹山・履軒に儒学を、麻田剛立に天文学を学ぶ。主著『夢の代』。無鬼論(無神論)、地動説を唱える。懐徳堂の思想家をもう一人。富永仲基。儒教、仏教の批判を展開する。語群45の「誠の道」は富永の主張。主著『出定後語』。

C

(ア) 神は「本地仏」が「この世に現れ(垂迹)」たものということ

(イ) 「孔子・孟子の原典に即して」というところがポイント。

(ウ) 寛政異学の禁は、あくまで、「聖堂学問所」で朱子学以外の儒学を講義してはいけないとしたもの。一般に向けての学問統制ではない。むしろ、そうすれば藩校などは右にならないをするだろうという思惑がなかったとはいえない。当時にあっても学問の統制となるとの批判もあった。舞台が「聖堂学問所」であるから、異学は朱子学以外の儒学であって、国学や蘭学は対象とはならないことも忘れてはならない。

### 【3】

#### 解答

- [A] (1) (2) 6 (3) (4) 42 (5) (6) 49 (7) (8) 38  
(9) (10) 28 (11) (12) 32 (13) (14) 35 (15) (16) 10  
(17) (18) 36 (19) (20) 24 (21) (22) 8 (23) (24) 16  
(25) (26) 54 (27) (28) 34 (29) (30) 26 (31) (32) 45  
(33) (34) 18 (35) (36) 22 (37) (38) 20

[B] (a) 遣唐使 (b) 草書体(草仮名) (c) 浮世草子

[C] (ア) 偏, 旁, 冠 (イ) 荻生徂徠 (ウ) 日本永代蔵

#### 解説

[A] [B]

- (1) (2)・(3) (4) 日本文化の歴史は、外来文化の摂取・受容による文化の時期と日本独自の文化が展開した時期とに分かれる。後者の代表的な事例が、平安中期に宮廷貴族たちを中心に展開した国風文化と、江戸時代中期以降に上方町人たちによって担われた元禄文化である。
- (5) (6) ~ (9) (10), (a) 10世紀は東アジア世界の変動期であった。7世紀以来東アジアに冊封体制を築いていた唐は907(延喜7)年に滅亡し、唐末五代・十国の混乱を経て、960(天徳4)年には宋が中国を統一した。また、大陸東北部では渤海が契丹に滅ぼされ(926年)、朝鮮半島では新羅が滅亡して高麗が半島を統一した(936年)。これに先立って日本では、894(寛平6)年、菅原道真が、唐の衰退と航海の危険を理由に遣唐使派遣の停止を宇多天皇に建議し、遣唐使は廃止された。
- (11) (12), (b) 古代日本の文化は、天平文化、弘仁・貞観文化と、唐文化の吸収によって進展し、その消化の上に乗って、日本独自の国風文化が生まれた。これは文字の発達に端的に現れている。日本人が漢字の使用に習熟したことで日本独自の文字使用も行われるようになり、表意文字である漢字の音のみを利用する万葉仮名が生まれ、その草書体の簡略化から平仮名が生まれた。
- (13) (14) 『竹取物語』は9世紀末から10世紀初頭に成立した現存最古の物語であり、かぐや姫の生い立ちから昇天までの説話を、当時の貴族社会の様相もまじえて描いた伝奇物語である。
- (15) (16) 『伊勢物語』は10世紀前半に成立した歌物語であり、在原業平と見られる人物の恋愛譚を中心に、和歌を主体とした120余の短編を収めている。
- (17) (18) 『源氏物語』は11世紀初頭に成立した全54帖の長編の物語で、作者は紫式部。光源氏を主人公とした前編と薫大将を主人公とした後編とから成り、平安時代末期には藤原隆能の絵による「源氏物語絵巻」も生まれた。
- (19) (20) 『枕草子』は10世紀末から11世紀初頭に成立した随筆であり、中世に書かれた鴨長明の『方丈記』、吉田兼好の『徒然草』とともに三大随筆と呼ばれる。作者の清少納言は一条天皇の皇后定子に仕え、同じ一条天皇の中宮彰子に仕えた紫式部とは競合関係にあった。
- (21) (22) ~ (25) (26) 江戸時代前半期には、幕藩体制の安定と儒学の合理的思考法の普及

から諸科学の発達も促された。歴史学の分野では、建仁寺の出身で、徳川家康・秀忠・家光・家綱の四代に渡り将軍家の侍講であった林羅山と鷲峰の父子によって、神武天皇から後陽成天皇までの歴史を編年体で叙述した『本朝通鑑』が宋の『資治通鑑』に倣って編纂された。また、水戸の徳川光圀は、江戸藩邸に彰考館を設けて『大日本史』の編纂を開始した。『大日本史』は、朱子学の大義名分論をもとに史実考証を行った紀伝体397巻の大作で、幕末には尊王論の基盤となり、編纂は江戸幕府滅亡後も続いて1906（明治39）年に完成した。なお33の『読史余論』は、新井白石が将軍家宣に進講した歴史書であり、九変と五変を通じて徳川支配の正統性を主張している。

- (27) (28)・(29) (30) 中国から伝わった、薬の原料になる植物・動物・鉱物を研究する学問を本草学という。日本では、貝原益軒が1708（宝永5）年に『大和本草』を刊行してその基礎を築き、同時期に加賀藩主前田綱紀に仕えた稲生若水は『庶物類纂』を編纂している（若水の死後、徳川吉宗の命で弟子達が完成）。
- (31) (32) 大蔵永常は19世紀の農政家であり、農民の利益の増大による国益を説いた。著した農書には『農具便利論』（1822年）、『広益国産考』（1844年）がある。
- (33) (34) 17世紀には、平安時代以来用いられていた宣明暦に誤差が大きくなっていった。そこで渋川春海は、元の授時暦をもとにして天文学の成果を加え、1684（貞享元）年に貞享暦を作成し、徳川綱吉が新設した幕府の天文方に登用された。
- (35) (36) 和算は、吉田光由の『塵劫記』（1627年刊）で算盤とともに普及し、関孝和の『発微算法』（1674年刊）、『括要算法』（孝和の死後刊行）で大成された。
- (37) (38)・(c) 俳句の松尾芭蕉と並び、元禄期を代表する文学者が井原西鶴と近松門左衛門である。井原西鶴は大坂に生まれ、教訓的な仮名草子を発展させて、享乐的、現世肯定的な浮世草子と呼ばれる小説の作家となった。一方、近松門左衛門は、竹本義太夫（独特の語りは義太夫節と呼ばれた）が始めた大坂の竹本座の座付き作者となり、時代物、世話物（町人社会の義理や人情の葛藤を描く）などの浄瑠璃作家として人気を得た。代表作には、時代物に、明の遺臣鄭芝竜と、その子鄭成功の活躍を描いた『国性爺合戦』、世話物に『曾根崎心中』がある。

#### [C]

- (ア) 片かなは、僧侶が経典を訓読する際の便宜のために、漢字の偏、旁、冠などのみを表音符号として用いたことから生まれたとされている。
- (イ) 朱子学（朱熹）や陽明学（王陽明）のような他者による中国古典の解釈ではなく、直接孔子・孟子の古典に学ぼうとした学派には、古学派と古文辞学派がある。古学派には、山鹿素行の聖学と伊藤仁斎の堀川学派（古義学）の系統があり、古文辞学では荻生徂徠が古典の成立当時の語彙の解釈を研究した。
- (ウ) 井原西鶴の作品には、『好色一代男』などの好色物、『日本永代蔵』『世間胸算用』などの町人物、『武道伝來記』などの武家物がある。『日本永代蔵』は金銭や出世を求める町人の姿を題材とし、大坂の繁盛のありさまなどを描いている。

#### 【4】

##### 解答

- 1 坪内逍遙 2 小説神髓 3 二葉亭四迷 4 正岡子規 5 経国美談  
6 鹿鳴館 7 硯友社 8 幸田露伴 9 森鷗外 10 北村透谷  
11 島崎藤村 12 樋口一葉 13 与謝野晶子 14 国木田独歩 15 夏目漱石

##### 解説

- 1・2 明治初期の近代化は政治・経済などの実用面に重きが置かれ、文学における近代化は立ち遅れていた。仮名垣魯文『安愚楽鍋』『西洋道中膝栗毛』などの戯作文学は、近世滑稽本の流れを引いて文明開化の世相を興味本位で描くのみであった。こうした状況下に、西洋の文学理論を持ち込んだのが坪内逍遙である。シェークスピアの翻訳でも知られる逍遙は、1885（明治18）年に『小説神髓』を発表して、現実の様相をありのままに描く写実主義の技法を提唱した。それは、政治や道徳への従属的な立場を脱し、人間の内面を追究する文学の独自性を主張するものでもあった。
- 3 逍遙は写実主義の習作として『当世書生気質』を発表したが、文体には戯作の影響が色濃く残っていた。写実には写実のための文体が求められる。そこで、文語に代わって口語による言文一致体を用いて写実を実践したのが、二葉亭四迷の『浮雲』である。『浮雲』は未完に終わったが、近代日本文学の先駆と位置付けられる。
- 4 1897（明治30）年に「ホトギス」を創刊し、俳句革新運動をリードしたのが正岡子規である。旧来の保守的な型通りの句風を「月並み俳句」と批判し、事物の実相をありのままに写し取る「写生」の態度を主張した。歌論『歌よみに与ふる書』では技巧に走る古今調を否定し、素朴な万葉調を称揚した。
- 5 自由民権運動が展開された明治10年代には、政治思想の普及を目的とする政治小説が書かれた。矢野龍溪（文雄）は立憲改進黨の結成にも参加している。『経国美談』は、古代ギリシアのポリス（都市国家）の1つ・テーベの盛衰に事よせた作品である。政治小説にはその他、東海散士『佳人之奇遇』、末広鉄腸『雪中梅』などがある。自由民権運動ではまた、川上音二郎のオッペケペー節など、演説会場で壮士芝居を行って宣伝していた。
- 6 条約改正交渉を進める井上馨外務卿（後に初代外務大臣）は、日本の近代化を列強諸国にアピールすべく欧化政策を進めた。その象徴として日比谷に建設された鹿鳴館は、イギリス人コンドルの設計で1883（明治16）年に竣工・開館、要人を招いて舞踏会・夜会などが開催された。しかし、猿真似にすぎないその姿はフランス人画家ビゴアの『トバエ』でも風刺されている。条約改正が失敗に終わると、政府主導による欧化政策に反発する形で徳富蘇峰の平民的欧化主義（平民主義）や三宅雪嶺の国粹主義などが高揚した。
- 7 1885（明治18）年に尾崎紅葉・山田美妙らが設立した、日本初の文学結社が硯友社である。浮世草子で大坂町人の姿をいきいきと描いた井原西鶴を理想とし、坪内逍遙・二葉亭四迷とは別の角度から写実主義に基づく言文一致体をめざした。機関誌は「我楽多文庫」。
- 8 『金色夜叉』などで女性の心情を描いた尾崎紅葉に対し、幸田露伴の作風は理想主義といわれ、東洋的な男性の理想像を描いた作品を残した。代表作『五重塔』では建築に勢力を注いだ大工の姿を力強く描写している。明治20～30年代は、紅葉と並び称されて「紅露時代」と呼ばれる。

- 9 内面的な感情を重視して、自我や個性の解放を求める文学の立場をロマン（浪漫）主義という。陸軍軍医としてドイツに留学した森鷗外は、帰国後の1890（明治23）年に日本人留学生太田豊太郎と踊り子エリスの恋愛を描いた『舞姫』を発表し、日本におけるロマン主義の先駆となった。訳詩集『於母影』『しがらみ草紙』の発刊など、西洋の文学理論を日本に伝えた功績も大きい。晩年は『阿部一族』『高瀬舟』など歴史小説に傾倒し、自己の置かれた立場を受け入れることで心の平安を得る諦念（レジグナチオン）の哲学を主張した。
- 10 北村透谷は青年期に自由民権運動に挫折すると、心の救いをキリスト教と文学に求め、実世界（現実の世界）と想世界（心の内面の世界）を対比させて想世界での自我の解放をめざした。1893（明治26）年に創刊した「文学界」はロマン主義の中心となったものの、自らは理想と現実のギャップに悩み翌1894（明治27）年に自殺している。
- 11 島崎藤村は北村透谷とともに「文学界」を創刊、1897（明治30）年には処女詩集『若菜集』を発表してロマン主義的近代詩の先駆となった。後に自然主義に転じ、被差別部落出身の教師瀬川丑松の生き様を描いた『破戒』は、我が国における最初の自然主義文学とされる。
- 12 樋口一葉（本名樋口奈津。実際には無姓で「一葉」と名乗った。他に樋口夏子の筆名も用いていた）は、父と兄で傾いた家の生計を立てるために執筆活動を始めた。島崎藤村らと親交があり、『たけくらべ』『にごりえ』を「文学界」に発表、明治期を生きる女性たちの心理を雅俗折衷の文体で描いた。1896（明治29）年、結核により25歳という若さで亡くなった。
- 13 与謝野晶子は与謝野鉄幹を慕って新詩社に入社、1900（明治33）年に「明星」を創刊し、翌年に鉄幹と結婚した。歌集『みだれ髪』など、封建的な道徳にとらわれず感情のままに詠む作風は明星派と呼ばれた。「君死にたまふこと勿れ」から始まる日露戦争の反戦詩は、戦地に赴く弟の身を案じた作品である。
- 14 自然主義とは、現実を客観的・合理的に描こうという文学の立場のこと。発達を見せる自然科学の影響を受け、実験的な手法を取り入れつつ人間や社会をありのままに観察しようというのがそもそもの趣旨であったが、日本では作家自身の生活を描く私小説が異常発達した。国木田独步『武蔵野』（短編集）、田山花袋『田舎教師』『蒲団』などが代表的な作品である。
- 15 ロンドン留学からの帰国後、小泉八雲の後任として東京帝国大学で講師を勤めていた夏目漱石が、高浜虚子の勧めで「ホトトギス」に『吾輩は猫である』（発表時の題名は『猫』）を発表したのが1905（明治38）年のこと。その後朝日新聞社に入社し、連載『明暗』を未完のまま49歳の生涯を閉じたのが1916（大正5）年。漱石の創作活動はわずか10年あまりにすぎない。人生に対して余裕を持って臨み、高踏的な見地から物事を捉えるという立場は余裕派（高踏派）と呼ばれる。ロンドン留学時に日本と西洋の違いに悩み、神経衰弱に陥った漱石は、日本の近代化はうわべだけの「内発的開化」にすぎないと批判する一方、自己の主体性を確立しながら他者も尊重する「自己本位」の立場を主張した。漱石の眼には、自然主義作家たちが「近代的自我」の呪縛に囚われて汲々としているようにしか見えなかったのである。晩年には我を捨てて運命に逆らわない「則天去私」の立場に至った。

【5】

解答

A (イ) 撰銭 (ロ) 吉田光由 (ハ) 発微算法 (ニ) 志筑忠雄  
(ホ) 高橋至時 (ヘ) 高木貞治

B 1 c 2 b 3 c 4 c 5 c 6 b 7 d 8 b  
9 d 10 d 11 c 12 b 13 a 14 b

C i 条里制 ii 勸学院 iii 算額 iv 勝海舟 (勝義邦・勝安芳・勝安房)

解説

A

- (イ) 中世，宋・元・明銭が日本にも入り，貨幣経済が浸透したが，それと同時に，悪質の私鑄銭も出回った。こういった悪銭を回避する傾向のことを撰銭という。幕府や戦国大名は経済混乱を回避するため，しばしば撰銭をいましめる撰銭令を出した。
- (ロ) 『塵劫記』は吉田光由著。江戸時代に広く普及した算術入門書で，日本で2番目に刊行されたものである。同時に算盤も全国的に普及した。
- (ハ) 和算の創始者といえる数学者の関孝和は，『発微算法』により代数計算の基礎を確立した。
- (ニ) 志筑忠雄は，江戸時代中期の天文学者・オランダ通詞。天文・物理学書を翻訳した『曆象新書』が有名。
- (ホ) 高橋至時は，江戸時代中期の天文学者。麻田剛立に天文学や暦学を師事，幕府天文方となり，寛政暦を完成させた。伊能忠敬に測量法などを教えたことでも有名。子の景保はシーボルト事件に連座して獄死。
- (ヘ) 高木貞治は大正・昭和の数学者。東大教授。代数分野の類体論を創出し，現代の整数論に影響を与える。

B

- 1 段楊爾だんようには難問だが，その他の選択肢がいずれも五経博士でないのはわかるであろう。消去法で正解できるはずである。
- 2 観勒は百済の僧で暦法や天文・地理書を伝えた。602年来日。
- 3 aの越前の愛発関あらかのせきは，美濃国不破関・伊勢国鈴鹿関と並んで，畿内への三関の1つとして最も重視された関。bは衛士を率いて都の諸門の開閉や警護を司ったので都に置かれたことがわかる。cは蝦夷追討の拠点で陸奥の多賀城に置かれた。dは大宰府のこと。
- 4 aは利息付きの貸し付けで，bは正規の調に付け加えるもので染料などがあつた。dは天皇に対する食料品等の貢物。魚介海藻や肉など。
- 5 吉備真備や玄昉は入唐し，帰国後は橘諸兄の側近として活躍した。
- 6 八省がどういった業務を行っていたかを正確に把握しておくこと。aは出納や物価・度量衡の設定。bは文官人事・教育。cは臣下の上表を伝達，詔勅の起草。dは戸籍・租庸調に携わる。
- 7 学者の系譜も確実に押さえておきたい。明経道は清原氏・中原氏，明法道は坂上氏，紀伝道は大江氏・菅原氏，算道は三善氏。
- 8 角倉了以は安土桃山・江戸時代初期の商人。豊臣秀吉より朱印状を許され安南などに貿易船を派遣した。また，交通網の発達のために，国内の諸河川の開削に従事。天竜川や富士川，

賀茂川，高瀬川を疎通させた。

- 10・11 渋川春海は、江戸前期の暦学者。従来の宣明暦の誤差を幕府に建言し、彼が発案した貞享暦が以後使用された。
- 12 本多利明は江戸後期の経世家。『経世秘策』『西域物語』で、開国による重商主義的国営交易論を主張した。
- 13 菊池大麓は近代数学及び数学教育の確立に貢献，東大総長や文部大臣，理化学研究所所長等を歴任。
- 14 学制により，教育を義務付けられたが，校舎の建設費の負担や高額の授業料，農業の繁忙期に貴重な労働力である児童が従事出来ないなどの理由から，学制反対一揆も起こった。

## C

- i 条里制とは，土地を360歩（約648m）四方の正方形に区画し，南北の縦軸を一条，二条などとし，東西の横軸を一里，二里と表した古代の土地区画制のこと。
- ii 勸学院は，藤原冬嗣が設置した大学別曹で，藤原氏の子弟が講義などを受けた。のちにその政所は藤原氏系の寺社の事務も取り扱った。
- iii 算額とは，学者が数学の問題を絵馬に書き記し，これに答える者が解答を絵馬に記して奉納したもの。
- iv 海舟は号で，名は勝義邦，のちに安芳。勝安房守であることから勝安房とも呼ばれた。海軍伝習所に入り，咸臨丸を指揮して太平洋横断に成功。その後海軍操練所を総管して人材を育成。海軍奉行に就任した。第二次長州征討では幕府の全権として交渉に当たり，戊辰戦争時，東征軍が江戸に迫った時には，西郷隆盛と会談して江戸無血開城を果たした。維新後は海軍卿，枢密院顧問官などを歴任した。

## 【6】

### 解答

- 1 開成所    2 学制    3 フランス    4 師範学校    5 教育令    6 アメリカ  
7 森有礼    8 学校令    9 法律学校    10 運動会    11 国定    12 6  
13 大学令    14 国民学校    15 男女共学

### 解説

- 1 医学所は伊東玄朴らが設立した種痘館が1860（万延元）年に幕府に移管されて種痘所となったものの後身である。西洋医学所をへて医学所となった。昌平黉は昌平坂学問所のことである。問の開成所はシーボルト事件により投獄，牢死した天文方高橋景保の建議により設立された蛮書和解御用が，洋学所，蕃書調所，洋書調所，開成所と発展したものである。明治政府に接収されて，医学所は医学校，昌平黉は昌平学校，開成所は開成学校となり，1869（明治2）年には国学・漢学を学ぶ本校，開成学校と医学校を分局と組織替えし，その後開成学校は大学南校，医学校は大学東校になった。国学と漢学の対立によって本校は翌1870（明治3）年に廃止され，やがて南校は東京開成学校，東校は東京医学校となり，1877（明治10）年に統合され東京大学となった。
- 2・3 近代教育制度の成立過程，つまり，学制→教育令→学校令という流れを押さえることが近代教育史の基礎である。

明治政府は大木喬任文部卿のもとで1872（明治5）年に学制を公布した。問題文中の史料は学制の序文、「学事奨励に関する被仰出書」の一部である。学制はフランスの制度を手本に制定されたもので、全国を8大学区に分け、各大学区に大学校1、中学校32、各中学区に小学校210を設立するというものであった。これでは全国に53,760校の小学校が設立されることになり、当時の人口600人に1校の割合で小学校が作られるという非現実的な計画であった。学制は国民皆学を謳ったが、例えば学校を建設するのも住民の負担となった。そのため、学制反対一揆も起こったわけである。

- 4 教員養成のための学校を師範学校という。入学できるのは男性だけだったので、女性教員を養成するために設けられたのが女子師範学校である。

師範学校令によって尋常師範学校と高等師範学校が設けられた。尋常師範学校は小学校教員の養成を目的とし府県立で各1校、高等師範学校は師範学校・中等学校の教員の養成を目的として官立で全国1校が東京に設立された。なお、この時の東京高等師範学校が現在の筑波大学、東京女子高等師範学校がお茶の水女子大学の源流である。

- 5・6 学制が画一的に過ぎるということで、寺島宗則文部卿のもとで1879（明治12）年にアメリカを手本に教育令を出した。しかし自由民権運動が高揚期を迎えようとしている時のことで、自由主義的な教育制度には反対も強く、翌年には早くも改正教育令を発し、早晚新たな教育制度が必要とされたのである。

- 7・8 1886（明治19）年に文部大臣森有礼のもとで国家主義的な学校令が発せられた。ここで気をつけておかなければならないことは、学校令という法令があったわけではないということである。実際にあったのは、帝国大学令・師範学校令・中学校令・小学校令という個別の法令であり、学校令という言葉はそれらの総称だということである。帝国大学令によって大学と称することのできる学校は日本で1つ、帝国大学すなわち現在の東京大学のみであった。小学校は高等小学校と尋常小学校の2つから成り、尋常小学校4年間は義務教育とされたのである。

- 9 よく出題される私大の前身は知っておくべきだろう。福沢諭吉が創設した慶應義塾が慶應義塾大学となるのが1903（明治36）年、新島襄が創設した同志社英学校が同志社大学となるのが1912（明治45）年、大隈重信が創設した東京専門学校が早稲田大学となるのが1902（明治35）年である。もっとも大学と称しても、ともに問題文中にある1903（明治36）年制定の専門学校令の適用を受けていて、正式な大学となるのは13の大学令制定以降のことである。大学令は女子大は認めていなかったため、日本女子大学校が日本女子大学となるのは1948（昭和23）年のことであった。他にも、自分で受験しようとする学校の沿革は赤本などで見ておくとよいだろう。本問のように中央大学を受けようとする人は、最初は英吉利法律学校とっていたんだということぐらいは知っておくべきである。

- 10 やや奇問であろう。「日本精神を体得」「学校行事」という部分から推測しよう。

- 11・12 もともと教科書は1886（明治19）年から検定教科書制度であったのだが、1902（明治35）年に教科書の採用をめぐる教科書疑獄事件が起こり、その結果、翌年1903（明治36）年から小学校教科書の国定教科書制度が実施された。

ところで、どの教科書にも掲載されているであろう義務教育の普及率のグラフは、しばしば問題とされるのでしっかり覚えておくべきだろう。1910（明治43）年には男女ともにほ

ほ100%になっている。記憶しておいてほしいのは、女子の就学率は男子の就学率より常に低いのだが、まず男子の就学率が100%に達し、しかる後に女子の就学率が100%になるのではないことである。最初2倍近くあった就学率の差は次第に縮まってゆき、男女ほぼ同時に100%に達するのである。そして、そのグラフには1907（明治40）年のところに義務教育が6年となると書かれていることも忘れてはならない。

13 大正時代では大学令が大事であろう。高等教育の機会拡充を望む国民の増加を背景に原敬内閣が1918（大正7）年に制定した。これによって、大学を称することができるのは従来の帝国大学だけではなく、公立大学や私立大学にも広げられ、加えて単科大学の設立も認められるようになったのである。森有礼の創立になる商法講習所の後身である東京高等商業学校もこの時東京商科大学となった。現在の一橋大学である。

14 昭和時代では国民学校が重要であろう。1940（昭和15）年に日独伊三国同盟を結ぶと、翌年ナチスの教育制度に倣って小学校を国民学校と改称したものである。これと同時に、1907（明治40）年に6年に延長されていた義務教育は8年に再び延ばされた。

15 問題文にある1947（昭和22）年公布の教育基本法は2006（平成18）年に全文改正された。第3条の教育の機会均等は新法の第4条にはほぼ踏襲されたが、第4条の義務教育については新法の第5条に記載されるに当たって9年の文言は消え「別に法律で定めるところ」とされた。そして、問題の第5条「男女は、互いに敬重し、協力し合わねばならないものであって、教育上男女の共学は、認められなければならない。」は新法の第2条教育の目標にその精神が受け継がれているとして削除されたのである。新法第2条第3項には「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ」とあるが、旧法の後半である、そのためには共学がありうべき姿であるという考えは新法では存在しない。

## 【7】

### 解答

A (1) 39 (2) 49 (3) 52 (4) 15 (5) 30 (6) 26  
 (7) 1 (8) 51 (9) 16 (10) 8 (11) 41 (12) 35  
 (13) 45 (14) 32

B (1) 4 (2) 4・6 (3) 3

### 解説

A (1) 映画は当初、無声映画で音声活動を弁士が担当しており、活動写真と呼ばれた。初期は輸入映画が上映されていたが、1899（明治32）年には歌舞伎実写など国産映画が制作され、1903（明治36）年には東京浅草に初の常設映画館となる電気館が開館した。また、1912（明治45）年には日本活動写真株式会社（日活）が発足し、尾上松之助などは立ち回り忍術を主とした活劇で人気を博すなど、映画は大衆娯楽として定着していった。

トーキー（発声映画）は、1931（昭和6）年に松竹映画「マダムと女房」から登場し、1951（昭和26）年にはカラー映画も誕生した。

A (2) (3) (4), B (1) 文芸協会は1906（明治39）年に坪内逍遙・島村抱月らが、文芸一般の革新を目的に結成し、新劇（歌舞伎などに対する近代劇）発展の基礎を築いた。しかし、島村抱月は松井須磨子との恋愛問題のため、坪内と袂を分かち、1913（大正2）年に

松井とともに芸術座を結成した（1918〈大正7〉年の島村，1919〈大正8〉年の松井の死去により解散）。

また小山内薫，土方与志は「演劇の実験室」として築地小劇場を建設して，新劇運動の拠点となった（1945〈昭和20〉年戦災で消失）。

1917（大正6）年に芸術座を脱退した沢田正二郎は歌舞伎を革新して，わかりやすい大衆演劇をめざして新国劇を始めた。「月形半平太」がヒットしたのち，剣劇の隆盛を迎える。

関西では1913（大正2）年に小林一三が宝塚歌劇団の前身である宝塚唱歌隊を組織した。小林は箕面有馬電気軌道（阪急急行電鉄）の経営者であり，鉄道事業における旅客誘致を企図し，また，大阪三越が設立した少年音楽隊に触発されて，宝塚唱歌隊を設立した。

- (5) (6) 野球は1872（明治5）年に日本に伝来し，学生スポーツとして発展した。1903（明治36）年には早稲田・慶應大学が対する早慶戦が始まり，1912（明治45）年には明治大学を加えて早慶明三大学リーグ戦，1925（大正14）年には法政・立教・東京大学を加えて六大学野球が発足した。

1915（大正4）年には第1回全国中等学校優勝野球大会（現全国高校野球選手権大会），1924（大正13）年には全国選抜中等学校野球大会（現選抜高校野球大会），1927（昭和2）年には全国都市対抗野球大会が開催された。

1934（昭和9）年にはベーブ=ルースらアメリカ大リーグ選抜チームが来日。そのために大日本野球クラブ（現読売ジャイアンツ）が結成され，また，大阪タイガース（現阪神タイガース）など7球団が相次いで結成され，日本職業野球連盟の公式戦が始まりプロ野球が始まった。

- (7) (8) 1928（昭和3）年のオリンピックは第9回アムステルダム大会である。織田幹雄，鶴田義行がそれぞれ三段跳び，200 m平泳ぎで優勝し，日本にとって初の金メダル獲得となった。

また，1932（昭和7）年第10回ロサンゼルス大会では三段跳びの南部忠平が世界新記録で優勝した。

1936（昭和11）年はベルリンで開催された（ナチス・ヒトラーの国威宣揚に利用された）。日本では，前畑秀子が女子200 m平泳ぎで日本人女子選手で初めて金メダルを獲得。「前畑，がんばれ，がんばれ」のアナウンスが有名である。

1964（昭和39）年の第18回大会は東京で開催（東京オリンピック）。アジア最初の大会であった。日本は男子体操・レスリング・女子バレーボール（東洋の魔女といわれた）・柔道など金メダル16個を獲得した。

- (9) (10) 週刊誌は1922（大正11）年の「週刊朝日」「サンデー毎日」が発売されたのが始まり。山本実彦が創設した改造社は1冊1円の「現代日本文学全集」を刊行。次いで新潮社の「世界文学全集」，春陽堂の「明治大正文学全集」などが続き，関東大震災後の不況打破に一役買う形になり，円本時代といわれる円本ブームが巻き起こった。

- (11) ラジオ放送は1925（大正14）年に始まり，翌1926（昭和元）年には日本放送協会（NHK）が発足した。